

<p>1 学校教育目標</p> <p>自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>(1) 学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2) 自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。</p> <p>(3) 明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくりや部活動やインターンシップ(キャリアチャレンジ)・実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び・学ぶ楽しさや役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持ち社会に必要とされる・貢献できる喜び」を体験させることを教育の指針とする。</p> <p>(1) 学力の向上 (2) 生徒指導と心の教育の推進 (3) 進路保障 (4) 部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進</p>
---

3 自己評価総括表		評価基準			評価	成果と課題
評価項目		A:できている	B:概ねできている	C:できていない		
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策		
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的な生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実を図る	・生徒一人ひとりの個性を把握し、学習面・生活面での意欲の向上に努める ・連絡網(安心メール)・ホームページ・電話自動受付等を通して保護者と連携を取り合う。 ・新型コロナウイルス感染予防に伴う健康観察アプリを導入し、適格な指導を行う。	A	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたものの、インフルエンザとの同時感染もあり、季節にかかわらず増加するなど対応に苦慮することも多かった。健康管理を呼び掛けながら年間行事や授業時数確保と生徒の学習・生活面での向上・充実に努めた。結果として出席率の大幅な低下もなく、学習成績の向上も見られた。 今後も、感染症への注意を促しつつ、安心・安全な学校生活と学習の充実に努めたい。
	教育環境の整備	教育環境整備を点検し、危険箇所等の早期改善を図る	教室、特別教室の安全点検と補修及び周辺環境の整備・充実を図る	・適宜、施設を点検し、危険箇所の補修・改善を行う	A	登下校や授業での校舎の移動では、公道を通る必要があるが事故なくできている。渡り通路が建築できないため、今後も安全に注意して指導していきたい。
学力向上	わかる授業への取り組み	生徒の理解度の把握	「授業への取り組みが消極的」以外の生徒の割合90%以上を目指す	年2回教務アンケートを実施することで生徒たちの授業に対する取り組みと自己評価、ならびに教師への評価を確認し、その結果をそれぞれ個々の授業にフィードバックし改善に努める。ICT機器の活用など授業の工夫に努め、知識・技能だけでなく思考・判断を促す活動を取り入れる。	A	一学期末に実施した1回目の教務アンケート結果では、32クラス中28クラスで90%以上の生徒が「熱心に取り組んでいる」と回答。一方で授業満足度か80%を下回る授業もあったが、その後教科単位で改善に取り組んでいる。ICT機器を用いた授業も各所で頻繁に行われている。
	学年の取り組み	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、数検、英検、朝・夕の課外や宅習ノート、個別指導	漢検の一斉受験やユメチャレ(英単語)・マスチャレ(計算)による基礎固めの取り組みをはじめ、総合ビジネス科・国語科・数学科・外国語科を中心に徹底した個別指導で意欲のある生徒達に伝える。	A	基礎固めの取り組みに加え、漢検・英検・数検等やビジネス科の検定受験者数も以前より大幅に増えた状態を維持しており、合格に向けた各科の取り組みもなされている。大学入試に向けた課外や個別指導も行われ、大学審が者数の続伸に繋がった。
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	・進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成 ・資格取得の推進 ・教育改革への対応	・進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める。 ・社会人として対応できる「挨拶」を含むマナーの向上 ・オープンキャンパス及び企業見学の参加率100%を目標とする ・教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員お	① LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組んでいく ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携するようにする。 ③ e-learning(すらら、スタディサプリ、classi)の活用 ④進路相談、個別面談の充実を図る	A	進路決定に向けて各先生方のサポートによって目標を実現できた生徒がいた。就職に関しては希望者が減少したが、大手企業に複数人内定などがあつた。コロナ5類以降、外部講師による進路講演や県外大学・専門学校の見学会など年間を通して、進路目標実現のための取り組みがで

		よび生徒に還元する。 ・英語5技能評価やPDCAサイクルを踏まえたアクティブラーニングを取り入れた授業改革を検討する。	⑤外部講師による面接指導の実施 ⑥進路情報の提供 ⑦資格取得によるAO、推薦入試の活用 ⑧総合探究コースと総合ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施 ⑨各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する。 ⑩これまで取り組みを強化してきた実用英語技能検定をはじめとする外部試験を比較検討する。 ⑪資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験の導入。	きた。次年度に向けては生徒一人一人が進路のミスマッチがないように、景気の動向や、大学の状況などを注視していきたい。	
	一人ひとりの進路目標達成	・個に応じた進路指導の推進 ・多様化する生徒の進路目標への対応の推進 ・多様化する入試制度への対応 ・課外、資格対策の充実	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	A ミスマッチを防ぐためにオープンキャンパスへの参加や就職希望者については会社見学に参加する等、比較することや自分にあった職種に就けるように学年に連絡していきたい。今現在も多くの先生方の協力で様々な指導を行って頂いているが、今後も指導の内容の共有を図っていきたい。	
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止	登下校時における学校周辺の一列通行と盗難予防の意識を高めるための二重ロックの徹底。また、校舎間における公(市)道の横断の安全性を高める。	登下校時の交通指導と二重ロックの点検を定期的に行い、普段から校舎間の移動に対する注意喚起を行う。	B 漱石邸前道は道幅が狭く、以前はドライバーから苦情が出ていたが、全体への注意喚起や先生方の指導により、学校周辺でのトラブルは少なくなったように思われる。学校周辺だけでなく、広い範囲で交通ルールを守れるように指導していきたい。二重ロックについては、校内でも無施錠のものもあれば、校外巡視の警察から連絡が入ることもあり、今後の指導を強める必要がある。
	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	SNSなどのインターネットを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる。	「SNS」や「薬物防止」等の講話を実施し、生徒の防犯意識を高めるようにする。	B 6月に1年生を対象としたSNS講話を実施し、SNSの使い方や、他人との付き合い方について学んだ。結果的にSNS関係の生徒指導事案は少なかったが、私たちに見えない部分でのSNSの使用はかなり多いものと予想される。10月には2・3年生を対象に薬物依存防止講話を実施した。若者の間に大麻等の薬物使用が広まっている中、本校ではそのような事案は発生しなかった。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	生徒の人権に配慮する力の向上	校内研修の充実。啓発のための通信を発行する。	B 人権同和教育主担者として、様々な研修に参加はしたが、その研修の内容を職員に還元する活動は行っていなかった。年度内にはこの一年間、研修等で学んできたことをレポート化して、職員に通信の形で配布しようと考えている。
	生徒の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	他を尊重する態度の育成	研修の充実。日ごろの教育活動における指導の充実。	A ”各階に啓発用のポスターを掲示し、周知をはかった。また、人権大会に参加する生徒も少ないながらも、人権教育興味・関心を持つ生徒がいた。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見に努める	いじめに対する学校としての方針を徹底すると同時にそれらを生徒に周知する機会を設ける。	いじめをしない、させない、そしていじめを許さない学校としての方針を集会等で話す。	B 今年度1年生の間で、いじめにあたるような事案が発生し、該当生徒に対しては退学・無期停学の処分をした。ある程度早期に発見できたため、大きな問題に発展せずに済んだとも思えるが、さらに早期の”関係づくり”の段階から気を配れば、処分される生徒もいなかったのではないかと考えている。

	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める。	常日頃から担任、学年主任、そして教育相談、スクールカウンセラー、生徒指導部の連携を図る。	いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図る。	B	上記の件は、いじめを受けていた生徒からの訴えにより表面化し、その後学年と生徒部が対処したが、もしその生徒の声がなかったら、もっとエスカレートしていたかもしれない。日頃から各学年主任とは話をしているが、生徒部としてもっと学年に入っていくべきだったのではないかと反省している。今後は定期的に学年会等へも参加し、いじめの早期発見にあたるよう心がけたい。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える。	生徒のニーズに応じた書籍を仕入れる。定期的に企画を考え、図書館に興味を持ってもらえるようにする。	B	2年3年の希望クラスには学級文庫という形式で本の貸出を行うことができた。また、夏休みの前などに国語の授業時間を使い、本の貸出を行った。昼休みや放課後への利用がなかったのが今後の課題である。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる。	現在、図書館にある資料が古くなっていないかを確認し、必要に応じて資料の更新をする。	C	資料の購入ができなかった。こまめに購入ができるように計画を立てる。
学校保健	心身の健康に興味・関心をもち、主体的に健康で安全な生活を送ることのできる生徒を育成する	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為の実践力育成	①生徒が自身の健康状態を把握・保持増進する機会を設ける ②心身の健康に対する興味関心の向上と正しい知識の習得 ③生涯にわたり自他共に健康で安全な生活を、主体的に送るための知識習得や自尊心向上を目指す	・保健調査票や健康診断の結果などをもとに個別指導・校外連携を行う ・保健室来室時、再発の予防や適切なセルフケアの方法を指導する ・配布物や掲示物等を活用し、季節に応じた保健便りの発行及び校内掲示物の工夫を図る ・生徒保健委員会活動を通じ、健康に関する情報発信の機会を設ける ・生徒対象の普通救命講習(修了証の交付、講師:消防署)を年1回実施 ・外部講師等による講演を実施	A	保健調査票や教員を通して情報収集を行い、生徒に合わせた対応ができた。また、必要に応じて教員や保護者へ連絡を行い、連携することができた。保健室の掲示板では、その時期に多く流行している病気などを取り上げ、掲示物を通して対策方法など、情報を発信することができた。生徒保健委員会活動を必要に応じて実施し、生徒と保健活動を取り組むことを行った。
	学校環境の整備を行い、美化意識の向上を図る	環境美化の推進	①清掃指導の徹底及び環境美化の意識を高める活動の推進 ②法に基づいた学校環境衛生の維持管理及び改善	・生徒整美委員による美化コンクールを学期ごとに実施 ・掃除用具の定期的な点検及び整備 ・床のワックスがけやカビ取り等日常清掃では対応が厳しい部分の清掃 ・学校薬剤師の指導に基づき、環境検査・環境整備を実施し、改善を図る	A	掃除場所の決定や掃除用具の点検を行い、適宜掃除用具を取り換えるなど管理を行った。学校薬剤師と連携をはかり、毎月来校時に学校環境検査を行い、改善点の指導をもとに修正をすることで環境調整ができた。

#### 4 学校関係者評価

学校長より、全生徒アンケート・全保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートをもとに、今年度の報告をされる。

##### 委員A

- ・生徒の意見に「スカートの丈が短い」があったが、繁華街の補導で回るとき、中央高校の生徒の化粧の濃さやスカートの短さは気になる。学校の基準はどうなっているのか？  
校長「検査して、膝上5cmまでは許容範囲内としている。しかし、学校内は注意できるが、学校外になると短くするため対応が難しい。化粧も日焼け止めと言われると、男性教員はなかなか判別が難しい。」
- ・いじめ事案では、今年中学・高校で第3者委員会が設置されるなどいじめの相談件数が大変多かった。また、教育委員会や私学振興課へ相談など、保護者や生徒の状況のとらえ方の違いもありそこに弁護士も入ってくる事案が増えていてどの学校も苦慮されている。警察でもいじめがひどく刑事罰にあたる事案の場合、双方から聞き取りなどを行っていくので、先生方も知っておいていただきたい。

委員長「校長からいじめの報告があったが、今後もいじめがなくなると言えるように指導していただきたい。」

##### 委員B

- ・今年から第8町内自治会長となり評価委員となった。中央高校とは第1回のインターンシップから生徒を受け入れている。まじめで真面目な生徒が多いが、何のためにやるのかとか人間教育の一環として指導している。
- ・窃盗・万引きの話があったが、経過を聞きたい。  
校長「窃盗はお金の抜き取り事案であったが、被害者に謝罪し、元に戻っている。万引きの件も店への謝罪はしているが、出入り禁止措置を受けたと聞いている」
- ・看護科は厳しく指導されることは科・コースでの差別でないかとの意見があったが、実際どうか？  
教頭「今年、専攻科を教えたが看護科だからという意識はないが、患者を対象とし、自分の命を預ける看護師として考えると、普通科・総合ビジネス科の生徒より厳しくなってしまう。生徒にとってみれば、一高校生として見ているから、その様にとらえるのも仕方ないが難しい。」  
校長「実習に行った際に学校と同様に話していることなどを患者や指導看護師は聞いており、その言葉や行動で評価されてしまうと伝えるが、それが伝わらずSNSで複数で処分されたこともあった。」
- ・税理士ということで、総合ビジネス科の生徒のみインターンシップを受け入れているが、そういったように限定せずに、個人的には全く関係のない普通科の生徒も受け入れ、こういった仕事もあるということなどを伝えたい。」

##### 委員長

- ・インターンシップの話があったが、女性も多く受け入れ先には苦慮されているのではないかと？  
校長「インターンシップは普通科と総合ビジネス科で実施している。以前は普通科共通コースで6日間の実習で2つの業種の実習を実施していたがときは、受け入れ企業には大変苦慮されていた。しかし、現在は、1業種の4日間であるため、簡単ではないが何とか実習受け入れ先は準備できている。コロナ禍でここ数年できていなかったが、今年久しぶりに実施できた。ほかの学校でもインターンシップをやっているのだから、なかなか実施が厳しくなってきた。」

・スマートフォンの使用時間が5～6hのアンケート結果もあったが、学校ではどう指導しているのか？  
 校長「スマートフォンの使用規定は、学校でも規定をして指導しているが、家庭ではあまり指導されていないのでないかとアンケートを見る限り推察される。この点に関しても、家庭の協力が重要なことでもあり、家庭との連携を強化して対応したい。」  
 委員A「坪井交番の巡査が中央高校のスマートフォンの講話を実施したが、警察の方でも時間は難しいが、その使い方については協力していきたい。」  
 委員長「子供が家に帰って、家の方でも話し合ってもらったり、今後は後援会長とも話し合って、後援会総会などを通じて保護者に学校の方針を伝えてもらうことも重要ではないか。学校の先生から話すことと、保護者の立場から話すことでは全然違うのではないか。」

・ヘルメットの着用について、県立高校で義務化が発表されたが、ほかの私学や中央高校ではどのように対応されるのか？  
 校長「私学の校長会では、努力義務として各学校に対応をゆだねている。現場からは警察から強制的に義務にしてほしいという話が出ている。本校でもほとんど着用していない。特に、女子は髪型に影響が出るため着用していない。」  
 委員A「公立高校では2025年から義務化という記事が出ていたようである。警察として、罰則は決められておらず、努力義務ということである。」  
 委員長「仕事である会社に行ったときに、担当者の方が事故で亡くなられて通夜式に行った。昨日まで元気だった方が突然亡くなられた家族の姿を思うと、今後交通ルールの順守にはしっかり取り組んでもらいたい。」

・図書館は利用しにくいのですか？  
 校長「生徒の教室から離れていることと、図書室がタブレットを管理する場所としても使用され、本の貸し出しがあまりされていない。」  
 教頭「以前は専属の司書の先生がいらっしゃり、本の管理や貸し出しなどきちんとできていたが、現在は国語の教員が兼務しているため、なかなか手が回らない。これは、国語の非常勤講師の先生からも要望が出てきている。」  
 事務長「図書の担当と話をし、現在司書のパートを雇う方向で検討している。しかし、司書の免許が必要だし、時間帯や待遇も囁託で考えている。また、本の管理をするソフトは最新のものであるが、パソコンが入れ替えてきていないため、ここ数年の本の管理ができていない。」  
 校長「ひとつにはスマートフォンの普及により、本を借りてみるより電子文庫をみるようになって、本の依存度が減少していることも一因している。」

・今年度の志願者の数はどうであったか？  
 事務長「今年度は志願者が約630名で、ここ最近で最高の志願者となり、競争率も大変高かった。」  
 校長「合格者は500名をいかない人数であった。専願とスポ特で228名来てくれて、後は学力奨学で50名位、一般で30名位、あと学力特待数名来てくれることを予想し合格を発表した。ほかの私学も軒並み増加している。」

5 総合評価

新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたもののインフルエンザとの同時感染となり、年間を通して対応を迫られる状況であった。教育環境の整備を適宜行い、学習指導に必要なICT機器の導入とともに生徒の理解度の向上や資格検定の合格に役立てられた。また、進路指導でもキャリア教育実践と大学入学共通テスト対策及び基礎学力テストなどによる学力診断を徹底し、進学情報収集に努めた。

生徒指導上の問題となる規律意識の向上や人権教育にも注力した結果、問題事例は減少した。一部に重大事案となる事例が見られたが、未然に防止できた。校舎改築後から図書館棟が教室から離れた場所となり、図書館機能の改善には問題が残る。

保健衛生面では換気や掃除用具の工夫も行っているが、更なる指導の徹底を行いたい。最後に、教師の自己評価と保護者・生徒のアンケートにも共通した問題として家庭学習やスマートフォンの使用については家庭との連携・協力をさらに密にしていく工夫も必要となり、コロナ禍以降の通常の活動とともに、相互に連絡を取れる状況や機会を増やしていきたいと考える。

6 次年度への課題・改善策

学校運営に向けては来年度以降、学校組織を変更し、学校や生徒の活動がより分かりやすいように広報するとともに、学習・生徒・進路指導の工夫・改善にも取り組み、生徒の将来に向けた目標の達成のための支援・指導に努め、生徒が自ら自己実現できるようなサポートと個性の把握にも励み、成長できるようにバックアップし、心身共に健康で健全な成長に向け、全教職員で協力していきたい。

令和5年度 学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

令和6年6月18日

学校法人 加寿美学園  
 熊本中央高等学校  
 理事長 竹下 英 様

熊本中央高等学校  
 学校長 塩田 顕一郎

決裁	理事長 竹下 英 	学校長 塩田 顕一郎 	教頭 富田 由佳 	教頭 福元 聡 	事務局長 柴田 徹 	事務長 橋本 孝 
----	--	--	--	--	---	--